

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成29年度病害虫防除情報第10号

冬春トマトの病害対策について、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

冬春トマトの病害が平年より早い時期から発生が認められます。適切なほ場管理と初期防除に努めましょう。

- 1 作物名 冬春トマト（ミニトマトを含む）
- 2 病害虫名 灰色かび病、葉かび病、すすかび病
- 3 発生状況（経過）

12月中旬に実施した巡回調査の結果は以下の通りであった。

1) 灰色かび病 (株)

発生面積率：20.0%（前年0.0%、平年8.4%） 平年よりやや多
発病株率：1.7%（前年0.0%、平年0.3%） 平年より多

(果実)

発生面積率：0.0%（前年0.0%、平年0.8%） 平年並
発病果率：0.0%（前年0.0%、平年0.1%） 平年並

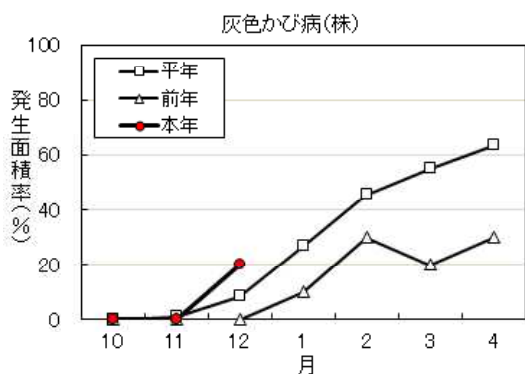


図1 灰色かび病(株)の発生面積率

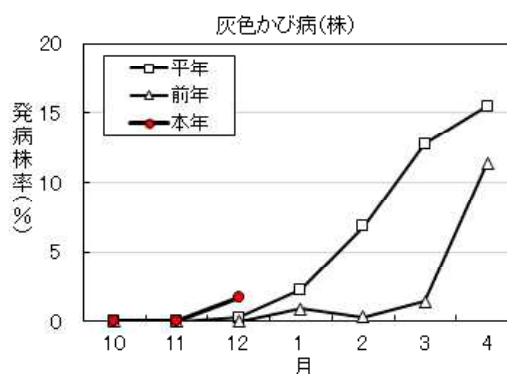


図2 灰色かび病(株)の発病株率

2) 葉かび病

発生面積率：20.0%（前年0.0%、平年4.5%） 平年より多
発病葉率：0.2%（前年0.0%、平年0.3%） 平年よりやや多

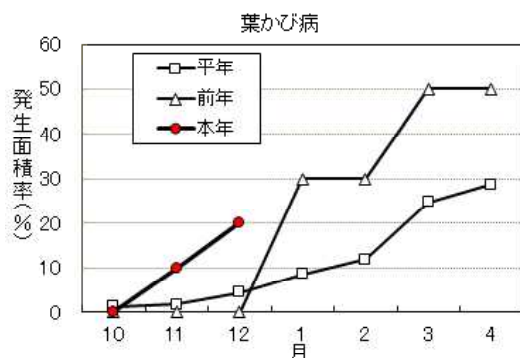


図3 葉かび病の発生面積率

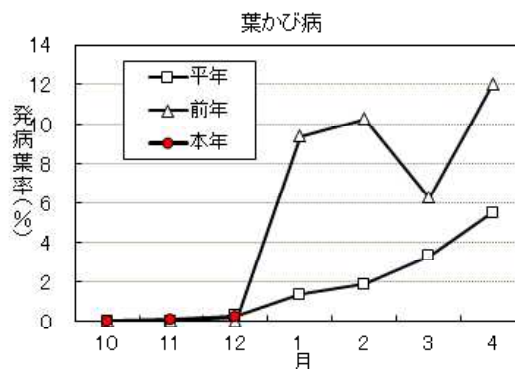


図4 葉かび病の発病葉率

3) すずかび病

発生面積率：20.0%（前年40.0%、平年15.1%） 平年並
 発病葉率：0.4%（前年2.8%、平年1.4%） 平年並

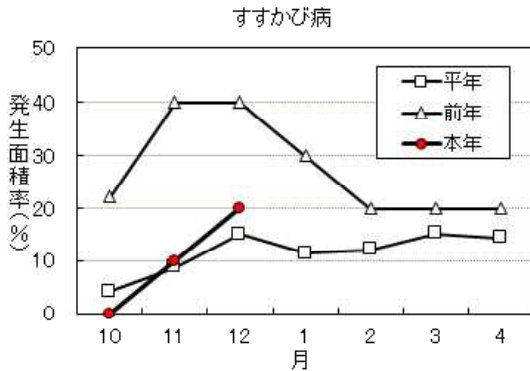


図5 すずかび病の発生面積率

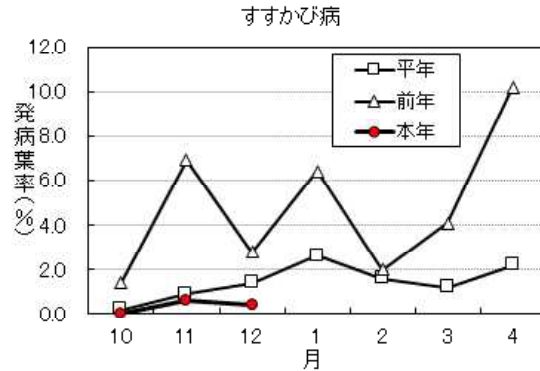


図6 すずかび病の発病葉率

向こう1ヶ月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量も平年並もしくは少ない予報となっている（12月14日鹿児島气象台発表）。

4 防除上の注意

(1) 今後、気温が低くなることで、内張カーテンの設置等により、ハウス内が過湿状態となりやすい。日中も送風を行うなど、できるだけ施設内が高湿度にならないように管理を徹底する。

(2) 茎葉の過繁茂は発病を助長するので、可能な限り摘葉し、日当たりや風通しを良くし、薬剤が付着しやすいようにする。

(3) 発病茎葉は感染源となるため、施設外に持ち出し、適正に処理する。

灰色かび病菌は、しぼんだ花弁にも寄生し増殖するため、果実と接触した部分から侵入して発病させることから、咲き終わった花弁はできりだけこまめに除去する。また、葉や茎の傷口等が乾きにくいと、そこから侵入し発病しやすくなるので、十分に気を付ける。

(4) いずれの病害も、多発してからでは防除効果が劣るので、予防散布に重点をおき、発病がみられたら直ちに薬剤散布を行う。薬剤の選定にあたっては、系統別にそれぞれの特徴を生かしてローテーション散布する。

灰色かび病については、多くの薬剤に対する耐性菌の発生が確認されているので、防除効果が認められない場合は、使用を中止し、他系統の薬剤に切り替える。

● その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センターなど関係機関に照会してください。

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 久野

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>